



小原友行委員長

広島大学大学院
教育学研究科 教授

広島型のキャリア教育を求めて

キャリア教育支援会議
委員長 小原友行

最近よく耳にするキャリア教育とは何でしょうか。

広島県教育委員会によって作成されたパンフレット「キャリア教育の推進」によれば、「幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われる教育活動の総体」と定義されています。このような定義からも読み取れますように、広島県におけるキャリア教育の大きな特色は、中学校、高等学校の「出口」での進路指導や職業教育ではなく、学校・家庭・地域・産業界の連携のもとで、「入り口」である幼児期から、発達段階に応じて子どもたち一人一人に夢をはぐくみ、なりたい自分を探しながら、自己の在り方生き方を考えていく、自己実現型の取組みをめざしていることです。このような広島型のキャリア教育は、「生涯輝く大人づくりをめざした教育」と言い換えることもできるのではないのでしょうか。

では、なぜ今、このようなキャリア教育が求められているのでしょうか。

その最大の理由は、「大人になりたくない」「大人になりきれない」子どもたちが増大してきていることです。子どもたちが大人になり、次の世代の親になるのは、今から10年後、そして20年後です。その頃の社会を考えると、子どもたちの経験や体験の不足とともに、コミュニケーション力や人間関係形成力、将来設計力や意思決定力といった、社会に参加しそれを形成していくための「生きる力」が十分育っていないことは、大変心配されるどころです。

しかし、それは子どもたちの責任ではなく、学校・家庭・地域の変化の中で、大人が子どもたちにそのような力をはぐくむ場を用意してこなかったということではないのでしょうか。いわゆる、家庭・地域の教育力の低下です。私たち大人は、幼児期からの発達過程において、育て残しをしてきたのではないのでしょうか。昔も今も、子どもたちの本質は変わらないはずですが。今求められているのは、家庭や地域での子どもたちの生活の中に、学校での学習の中に、そのような「出会い、発見、感動」のある自己実現の場を取り戻すことです。子どもたちが「生きる意味」を考え、発見する時と場が必要ではないのでしょうか。

では、これからのキャリア教育をどのように進めていくことが必要となるのでしょうか。

私たちキャリア教育支援会議のメンバーは、「つながり」をキーワードに時間をかけて検討を行いました。その結果を、学校間、学校と家庭、学校と地域、学校と産業界が連携することによって生まれる教育力を活用することによって、子どもたちが生涯のテーマ（目標、夢、希望、そして志）を見つけるようになることを支援するための具体的な提言として、このパンフレットに書かせてもらいました。広島型のキャリア教育によって、未来を担う子どもたちが自分自身のキャンパスにどのような夢や志を描いてくれるのか、大いに期待したいと思います。

広島県におけるキャリア教育のめざす

”夢のスケッチブック”

保育所・幼稚園

ねえ、ひみつきちをつくらうよ！

じゃあ、ぼくがあなをほるから、みんなは おやまをつくって…



茎にそって掘ってごらん。おいもが見つかるよ。

ともだちどうし相談しながら、仲良く遊んでいます！

小学校

ほんとだ！おいもって こんなふうになるのか！



地域の高齢者の方と一緒にいもほりをしたよ！

【地域の方】

- 学校では体験できないことを、私たちが体験させてやることは、地域の大切な役割だと考えています。子どもは地域の宝ですから。

【受入事業所の方々】

- 5日間の職場体験は、作業の内容も理解でき人間関係もできてくるので、声も大きく、言葉づかいもよくなり、子どもたちの成長が実感できました。

もの

輝く大人をめざして

高等学校

急斜面での作業で大変だった。私たちの力で失われた緑の山が復活したらすばらしいだろうなあ。10年後20年後、今日植えた苗木が大きく成長した姿を見に来たい！



笑顔で対応することの大切さに気がきました。

- 生徒が社会を知る大変良い機会だと思います。我々企業にとっても社会貢献活動として引き受けるべきだと考えています。

中学校

地域の山の緑を復活させるために、地元の森林組合の方の指導で、参加した多数の市民と一緒に植林しました。

【植林の指導をした森林組合の方】

- 地元の自然環境を考え自然保護や地域活動に関心をもってくれることに、意義と頼もしさを感じました。



地元の道の駅で特産品の販売を体験しました。

【教職員】

- 事業所や関係機関等との連携を通して、地域の教育力の重要性を再認識できました。
- 体験活動を実施する中で、事前・事後指導の在り方など、学校の教育活動の見直しを図ることができました。
- 体験活動の中で、学校では見られない生徒の姿を見ることができ、新たな一面を発見することができました。

【保護者】

- 職場体験を通じてあいさつの大切さ、笑顔の大切さ、自分の思うようにならない社会の厳しさ、お客さんや職場の人とコミュニケーションをとることの難しさを学んだようです。子どもにとってプラスになったと思います。